

紺青の阿波に響け
邦楽の調べ

邦楽の祭典

平成19年 10月28日 [日] 午前9時30分～午後5時30分

徳島県郷土文化会館

こどもワークショップ 平成19年10月27日 [土]
午前10時～正午

邦楽の祭典

紺^{こんじょう}青の 阿波に響け 邦^{みやび}楽の調べ

開催日 平成19年10月27日(土)
会場 徳島県郷土文化会館
開場 9:30
開演 10:00
終演 12:00

開催日 平成19年10月28日(日)
会場 徳島県郷土文化会館
開場 9:00
開演 9:30
終演 17:30

一部

1. オープニング
冬の一日パートⅡ

2. 招待演奏

手事 岡本 悠希
(平成18年度第24回全国小・中学校箏曲
コンクール小学生個人の部最優秀賞)

二部

プロ奏者による邦楽ワークショップ

フィナーレ

稲田 康先生による「冬の一日」指導
—総出演者による演奏—

1. オープニング

長唄「阿波踊り慕情」(徳島県)

開会行事

2. 長唄「秋の調」(徳島県)
3. 相生の詩(三重県)
4. 六段の調(徳島県)
5. 秋風の歌(岡山県)
6. 岐阜民謡おばば幻想曲(岐阜県)
7. 吟詠「阿波八景」「祝賀の詞」(徳島県)
8. 千代の鶯(広島県)
9. 海鳥の詩(福井県)
10. 編曲八千代獅子(大分県)
11. ひぐらし(群馬県)

<休憩>

12. 長唄「勸進帳」(特別出演)
13. 銀色の翼にのって(山口県)
14. はるかなる大地(高知県)
15. 富士(静岡県)
16. ふるさと民謡浪漫(愛知県)
17. 浄瑠璃「寿式三番叟 鈴の舞」(徳島県)
18. 和風楽(東京都)
19. 錦秋(徳島県)
20. 琵琶「千曲川」(徳島県)
21. 編曲長唄「老松」(兵庫県)
22. スウィング・バラード・ニュー(福岡県)
23. いとたけ(鳥取県)
24. 謡曲「通盛」(徳島県)
25. 民謡「渦の舞」(徳島県)
26. 阿波の風(香川県)

引継ぎ式

27. フィナーレ
三曲「四重協奏曲 阿波」(徳島県)



文化庁長官

青木 保

「第22回国民文化祭・とくしま2007」が、「おどる国文祭」の愛称のもと、10月27日から11月4日までの9日間にわたり、盛大に開催されます。

国民文化祭は、全国各地の皆さんが日頃から行っている文化芸術活動を全国的な規模で発表し、競演し、交流する祭典であり、毎年開催地の文化的特色を活かして開催されております。

また、出演・出品される方々や鑑賞・体験される方々は勿論、ボランティア等で運営に携わっていただく方々など多くの参加者によって支えられ、回を重ねるごとに人々の繋がりや輪が広がり、盛り上がりを見せています。

22回目を迎える本大会では、「阿波の国 文化ふれあうゆめ・ひと・みらい」をテーマに、徳島の豊かな自然や風土から培われた徳島ならではの特色ある文化を活かした89の多彩な事業を展開します。徳島県は、古くは「阿波国(あわのくに)」と呼ばれ、藩政時代から四国霊場八十八箇所巡りが盛んであり、また、庶民文化として阿波踊りや阿波人形浄瑠璃、阿波藍といった、固有の優れた文化が先人より今日に受け継がれてきました。

これら徳島の誇れる文化を、本大会を通じ国内はもとより世界へ向けて発信していくことで、地域の文化を新たな視点から見つめ、再確認し、次世代へと継承・発展していく大きな一歩となるとともに、我が国の文化の向上に大いに寄与することを期待しております。

終わりに、開催にあたり格別のご尽力、ご協力をいただきました徳島県、開催市町村をはじめとする多くの関係の皆様へ深く感謝申し上げますとともに、「おどる国文祭」の成功を心から祈念いたします。



第22回国民文化祭徳島県実行委員会会長 徳島県知事

飯泉 嘉門

「おどる国文祭(第22回国民文化祭・とくしま2007)」へ全国各地からご参加の皆様、阿波の国・徳島へようこそ。皆様のご来徳を心から歓迎申し上げます。

徳島県では、四国三郎・吉野川流域の肥沃な大地での「阿波藍」の栽培が盛んとなり、江戸時代から明治の初期にかけて隆盛を極めました。これに伴う産業振興、経済的繁栄を背景とし、「阿波踊り」や「阿波人形浄瑠璃」など多彩な庶民文化が栄え、世界遺産に挑戦する「四国八十八箇所霊場と遍路道」に象徴される遍路文化によって培われた「お接待の精神」とともに、今日まで脈々と受け継がれてまいりました。

「おどる国文祭」では、これら徳島が誇る伝統芸能・文化である「阿波踊り」、「阿波人形浄瑠璃」、「阿波藍」と、本県がアジア初演の地であるベートーヴェンの「第九」を四大モチーフとし、県下各地で生まれた地域文化にも研ぎをかけ、全市町村を舞台に演じるとともに、これを契機に、長年培われてきた本県文化の振興や相互の融合はもとより、新しい感性を加味し、21世紀「精神の世紀、文化の世紀」を先駆ける新たな「あわ文化」を創造することにより、「文化立県とくしま」をさらに加速させてまいりたいと考えております。

ご出演の皆様には、日ごろの活動成果を存分に発揮されますとともに、交流の輪を一層広げられ、「いつまでも心に残る」祭典となりますようご祈念申し上げます。

また、この際、世界一の「鳴門の渦潮」に代表される豊かな自然、「なると金時(焼いもの代名詞)、すだち、阿波尾鶏(地鶏生産No.1)、鳴門わかめ」をはじめとする「食の宝庫」についても、ご満喫いただければ幸いです。

結びに、「おどる国文祭」の開催に当たり、多大なご支援、ご協力をいただきました文化庁をはじめ関係者の皆様に心からお礼を申し上げ、ご挨拶といたします。



第22回国民文化祭徳島市実行委員会会長 徳島市長

原 秀 樹

全国各地から「第22回国民文化祭・とくしま2007」へようこそお越しくございました。徳島市民を代表いたしました、心から歓迎申しあげます。

徳島市は、四国の東部に位置し、本県の県都として、産業、政治、経済、文化など様々な面で高い集積を持つ中核的都市として発展を続けてまいりました。

温暖な気候と豊かな物産に恵まれた本市は、四国一の大河吉野川をはじめ、大小138の河川が市内を縦横に流れ、優美な眉山の緑とともに、住む人に安らぎを与え、訪れる人を癒してくれます。

また、阿波おどり、人形浄瑠璃、藍染など、徳島の風土と歴史が育んだ個性的な文化を有しています。

本年5月には、本市を舞台とした、さだまさしさん原作の映画「眉山」が全国公開され、阿波おどりの熱気と情緒豊かなまち並みがふんだんに紹介されるなど、徳島の魅力を全国の方々に知っていただける機会に恵まれました。

「おどる国文祭」では、御来場・御出演いただいた皆様方が、阿波おどりのように「ここがおどる」文化の祭典となることと期待しております。

さて、本大会に全国から御参加いただいた皆様には、日ごろの練習の成果を十分に発揮されますとともに、地元の文化に触れ、徳島の魅力を肌で感じていただき、また、互いの交流を通して、文化の輪を広げていただきたいと思います。

また、ぜひこの機会に、阿波おどり会館で阿波おどりを体験していただいたり、すだちや鳴門金時など徳島の山の幸、海の幸を堪能いただければ幸いです。

最後になりましたが、本大会の開催にあたり多大な御支援と御協力を賜りました多くの関係者の皆様方に心からお礼を申しあげ、ごあいさついたします。



第22回国民文化祭「邦楽の祭典」企画委員長・徳島県邦楽協会会長

春 名 完 二 (松永和三治)

全国の邦楽を愛好される方々がここ徳島に相集い、第22回国民文化祭分野別フェスティバル「邦楽の祭典」が“紺青の阿波に響け邦楽の調べ”と銘打ってこのように盛大に開催できますことに深く感謝申し上げますとともに、ご来場いただきました皆様方を心から歓迎いたします。

本大会の開催に向け、企画・運営等の協議機関であります企画委員会の推進母体として徳島県邦楽協会がその一翼を担い、ご出演の皆様やご来場いただいた方々のご期待に添えるよう全協会員を含めた各スタッフが鋭意その準備を進めてまいりました。

阿波徳島は、古くから阿波おどり、義太夫が民衆のあいだで愛され、伝統芸能として伝えられ存続してきたためか、三味線、鳴物に非常に関心が深く、県民にはそのリズムが身に染み込んでいるように思われます。そうしたことから本大会のオープニングに故五世杵屋佐吉師作曲による長唄『阿波踊り慕情』を披露させていただきます。さらに、特別ゲストとして七世杵屋佐吉師をはじめ現代邦楽界で活躍しておられる方々をお迎えし、その卓越した演奏技術や表現力を拝聴できますことは、大変光栄なことであり、ご出演に心から感謝申し上げます次第です。

近代学校教育は、「富国強兵」という近代国家建設の理念のもと、邦楽を音楽教育の場から遠ざけてまいりました。百年以上過ぎて、やっと平成10年度から日本音楽が学校教育に取り入れられるようになり、私ども邦楽協会としましても喜ばしく、支援を惜しまないところでございます。このたび邦楽の第一線で活躍する講師から演奏指導を受けて、舞台でその成果を発表する「こどもワークショップ」を開催いたします。是非とも子どもたちの意気込みを感じ取っていただければ幸いです。

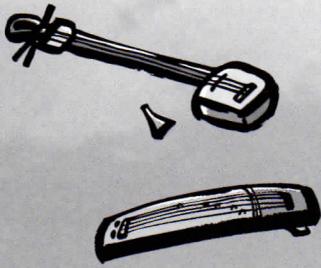
そして、全国からお集まりいただいた皆様方が、日頃のご研鑽の成果を十分に発揮され、多くの皆様との交流を深められるとともに、ここ徳島の舞台から邦楽という伝統文化の魅力さをさらに全国に広く発信して下さるようお願い申し上げます。

私ども徳島県邦楽協会は、昭和42(1967)年に設立され、現在は謡曲・長唄・三曲・琵琶・義太夫・吟詠・鳴物・端唄俗曲・民謡の9部門の加盟です。このたびは従来の国民文化祭「邦楽の祭典」と趣を異にするとと思われるかもしれませんが、徳島方式とでも申しますか、邦楽の全てを網羅したわけではございませんが、40年の実績を踏まえ多くの部門での参加を企画させていただきました。全国からご出演の皆様には何かとご不満なところもあろうかと存じますが、ご批判いただければそれを糧として精進に努める所存でございます。

最後になりましたが、本日ご参加の皆様方のご多幸とますますのご活躍をお祈り申し上げますとともに、この「邦楽の祭典」が伝統音楽の発展に寄与することを願って、ごあいさついたします。

阿波つ子

あつまれ



こどもワークショップ

2007年10月27日 土 10:00▶12:00



特別ゲストプロフィール

指揮者 稲田 康



1972年
1972年

京都芸術大学音楽学部指揮課卒業。
ウィーン国立アカデミー留学。1977年帰国。
指揮をハンス・スワロフスキー、外山雄三、山田一雄、伊吹新一の各氏に、作曲をフリードリッヒ・ノイマンに、現代音楽をカール・オルフに学ぶ。

1994年

帰国後はオーケストラ（新日フィル、東京交響楽団、東京ユニバーサルフィルほか）、オペレッタ（日本オペレッタ協会）、ミュージカル（「アニー」「ミスター・アーサー」「ベルサイユのバラ」）、現代邦楽（日本音楽集団、オーケストラアジア）、市川猿之助「スーパー歌舞伎」など、様々なジャンルで活躍。

1995年

米国スタンフォード大学にて、パロ・アルト・チェンバーオーケストラと共演。三木稔の作品『序の曲』を指揮。

1999年

東京フィルハーモニーを指揮したNHK制作の番組がプラハ国際テレビ祭、チェコクリスタル現代音楽優秀賞を受賞。

2001年

北京にてオペラ「天人」の世界初演を指揮し新分野を開拓。
石井竜也D.DREAMコンサートツアーを指揮、チェン・ミン、久石譲、COBA、東儀秀樹、CHAR、各氏との共演も行い好評を博す。

- 2004年3月 シンガポール公演（オーケストラアジア・ジャパン）、同年8月、「広島アニメーションビエンナーレ2004」にてファンタジアコンサートを指揮する（広島交響楽団、宗次郎、木村弓、井上あずみ）。
2005年6月 「21世紀万博（愛・地球博）」でオーケストラアジアを指揮。
2007年4月 サン＝テグジュペリ「星の王子さま」コンサートで秋川雅史と共演。

箏・十七絃奏者 宮越 圭子



飯吉正山（都山流尺八連盟副会長）、飯吉雅徳（正派邦楽会大師範）のもとに生まれ、幼少より箏を始める。1974年正派音楽院本科音楽科首席卒業。翌年正派音楽院研究科修了。在学中に箏を中島靖子・後藤すみ子、三絃を故・三宅倫子、他に師事。

同年、NHK 邦楽技能者育成会19期卒業、NHK オーディション合格、日本音楽集団入団。

以後、十七絃を中心とした積極的な演奏活動に入る。1976年東京リーダーターフェル合唱団ヨーロッパ公演・桐韻会ヨーロッパ公演に参加。1978年日本音楽集団第5次海外公演に参加。以後同団の12次、14次、18次、20次、21次、23次、25次の海外公演に参加。

又同団の一員として音楽之友社賞（1978年）・レミー・マタン賞（同年）・松尾賞（1988年）受賞。

舞台芸術の分野では三木稔作曲オペラ「春琴抄」「あだ」、歌楽「鶴」「うたよみざる」（1990年芸術祭賞）「ペロ出しチョンマ」に参加する他、市川猿之助スーパー歌舞伎「タケル」「オグリ」「八犬伝」「カゲヤ」、中西和久ひとり芝居「しのだづま考」「山椒太夫」「をぐり」などの音楽録音に参加。
レコード・CD 多数録音

尺八奏者・作曲者 水川 寿也



1958年生まれ。77年より都山流尺八を岡田諱山に師事。81年日本音楽集団入団。82年NHK 邦楽技能者育成会28期卒。以降、古典尺八に留まらず現代音楽、演歌、ロック、ラテン、ジャズなど幅広いジャンルで活躍。全国各地での公演の他、海外アーティストとの共演も多数。

2000年からは邦楽曲の作曲も始め、処女作「ブルーレジェンド」が宮城会コンクール入賞、「リープ」が現代邦楽として初めて「全日空」の機内音楽チャンネルに選ばれた。

「NHK 歌謡コンサート」で羽田健太郎&柴田はつみと「ジャズりんご追分」を共演（02年）。

テレビ時代劇「子連れ狼」主題歌（02年）・テレビCMサントリー「伊右衛門」（04年）に録音で参加、彼の尺八演奏が流れている。

「NHK 紅白歌合戦」には、伊藤多喜雄「民謡ロック・TAKIO バンド」共演（89年）・細川たかし津軽山唄の助演（02年）と、二度にわたり出場。

2006年水川作品リサイタルを千駄ヶ谷津田ホールで開催。

邦楽作品「雪舞」が全日空機内チャンネルで流される（07年）、サントリー「百年茶」CM録音など。

尺八ラテンJAZZバンド「AXIS」をラテンパーカッションist水野茂とともに立ち上げ、全国で活動。

“色彩ある音色”と新感覚の“詩情豊かな響き”には定評があり“誠実さとユーモアに溢れた人柄”で、多くのファンを魅了している。

現代邦楽作曲家連盟会員、日本音楽集団団員、昭和音楽大学非常勤講師。

作品集CD：「碧の伝説（ブルーレジェンド）」「大河の響き」「残光の彼方へ」

一部

1、オープニング

冬の日・パートⅡ 作曲：長沢 勝俊

第22回国民文化祭邦楽の祭典を記念して県内の邦楽に親しんでいる小・中学生を対象に一般公募し、18校43名のメンバーが集まりました。徳島県では17年前より「こども邦楽演奏会」を開催し、こども達の邦楽育成に大きな成果をあげています。今回、学校邦楽育成会と徳島邦楽集団の指導のもと合同練習を重ねてきました。演奏の為、一丸となって努力、協力しあった事は貴重な経験となり、将来の徳島邦楽界発展への足がかりとなる事でしょう。

1 箏

米澤 直樹 (石井小5) 小野 晴香 (助任小6) 中谷 茉矢 (桑島小6) 井元 千夏 (阿南中1)
高田 麻衣 (阿南中1) 橋本 彩 (阿南中1) 遠藤 舞 (川内中2) 古林 知子 (付属中2)
長岡香菜江 (阿南中1) 川野 真奈 (阿南中2) 梅岡 優 (入田中2) 大久保瑛里佳 (入田中2)
西田 りほ (入田中2) 金磯李可子 (北灘中3)

2 箏

久米真衣奈 (石井小5) 山田麻悠子 (藍畑小6) 古林 叶子 (堀江北小6) 谷口 聖架 (阿南中1)
橋本 郷香 (阿南中1) 石本 沙織 (阿南中1) 宮城絵美奈 (入田中2) 千本 悠加 (八万中2)
新居 礼菜 (北灘中2) 今川 結奈 (阿南中2)

十七絃

遠藤咲季子 (石井小5) 小倉佑一朗 (鴨鳥小6) 近藤 真衣 (阿南中2) 佐古 遥香 (阿南中2)
山根奈央子 (徳島中3)

三絃

神田 愛弓 (助任小6) 濱田 暖 (小松島小6) 元木 真由 (南井上小5) 白浜 綾華 (阿南中2)
折野 裕都 (阿南工業高校1) 佐藤 健一 (阿南工業高校2) 青木 貴宏 (阿南工業高校3)
久米 雄介 (阿南工業高校3) 仁木 康平 (阿南工業高校3)

打楽器

中野 香奈 (阿南中1) 岩浅 弥生 (阿南中1) 吉国 綾菜 (阿南中1)

尺八

板東 由有 (阿波高校2) 武川 七恵 (城西高校2)

(学年別 五十音順)

(曲解説)

子供の目から見た新しい冬の一日の思い出を合奏曲にしたものです。親しみやすいメロディーとユニークなリズムが邦楽器の独特な音色と一体になって楽しい冬の一日を奏でて行きます。

一章「序曲」二章「氷すべり」三章「雪の夜」四章「風と凧」五章「終曲」からなっています。今回は一章・二章・四章・五章を演奏します。

2、招待演奏(平成18年度第24回全国小・中学生箏曲コンクール小学生個人の部最優秀賞)

手事 岡本 悠希 作曲：宮城 道雄

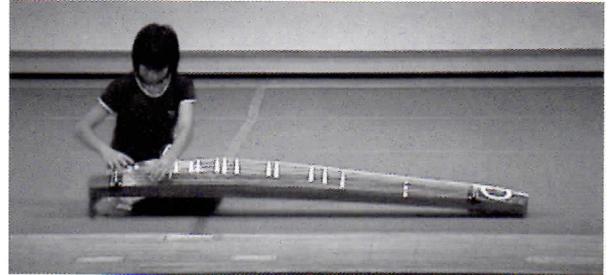


岡本 悠希プロフィール

5才より、生田流富城社師範、豊岡朗子氏に箏を習う。
2006年第24回全国小・中学生箏曲コンクール小学生個人の部最優秀賞。

第8回(平成18年度)岡山芸術文化賞準グランプリ。
2007年第25回全国小・中学生箏曲コンクール小学生個人の部優秀賞。

現在11才(小学5年生)。



(曲解説)

この曲は三章からなり、中味としては全く洋楽のソナタの形をとって作曲されている。

第一章「手事風」第二章「組唄風」第三章「輪舌風」
昭和21年作曲

二部

プロ奏者による邦楽ワークショップ

1、尺八のお話 水川 寿也 先生

2、お箏のお話 宮越 圭子 先生

3、「涼流」 作曲 水川 寿也
箏 宮越 圭子
尺八 水川 寿也

4、「生きていて良かった」
委嘱 宮越 圭子
作曲 長沢 勝俊
十七絃 宮越 圭子
尺八 水川 寿也

—フィナーレ—

稲田 康先生による「冬の日・パートⅡ」指導
—総出演者による演奏—

みやび
邦楽の調べ

10月28日(日)

開場：午前9時／開演：午前9時半



オープニング曲

1. 阿波踊り慕情

作詞：ふじたけし

作曲：五世 杵屋佐吉

編曲：増田篤志

徳島県邦楽協会(徳島県)



曲紹介

昭和56年作曲、徳島県邦楽協会長唄部門メンバーと特別出演者、洋楽器や人形浄瑠璃とのコラボレーションによる、「おどる国文祭」特別バージョンの長唄「阿波踊り慕情」を披露いたします。

しっとりした情緒とぞめきのリズムの躍動感で構成された、阿波郷土色あふれる曲で、「邦楽の祭典」の幕開けを華やかに盛り上げます。

●指揮

増田篤志

●唄

杵屋佐田篠・杵屋佐伴苗・杵屋佐響篠・杵家弥代弘・杵家弥智代
杵家弥津穂

●三味線

杵屋佐篠・杵屋栄篠・杵屋佐世篠・杵屋佐壱篠・杵屋佐佳篠
杵屋佐篠恵・松永和世幸・松永和世繁・稀音家治乃

●第1ヴァイオリン 猪子 恵 ●第2ヴァイオリン 稲富友有子

●ヴィオラ 豊米深幸 ●チェロ 岡尾有紀

●浄瑠璃

鶴澤友輔

●人形遣い

お弓 森田悦子・速水玲子・稲崎利子

お鶴 桜井和代・敷島富子・真鍋栄美子

[助演]

●唄

杵屋佐之隆・杵屋佐喜三郎・芳村辰三郎・杵屋佐喜

●三味線

杵屋佐助・杵屋浅吉・杵屋佐和十郎・松永和寿三郎

●囃子

福原百之助・福原鶴八郎・福原鶴之助・藤舎呂英・望月 潤

●笛

福原 徹

2. 秋の調

作詞：南部 俊

作曲：十世 杵屋六左衛門

構成：松永和三治

徳島県邦楽協会長唄部門(徳島県)



曲紹介

弘化二年作

長唄「秋の色種」を邦楽の祭典のために構成した曲。

秋の景物をうたい、秋の情趣を表わす描写曲で、唄は上品であり、三味線は上調子と併奏効果がすぐれた曲である。

「秋の調」は、そんな「秋の色種」より、〈虫の合方〉と〈琴の手事〉を中心に構成されている。

●唄

杵家弥代弘・稀音家四郎五郎・杵家弥智代・杵家弥津穂
杵家弥津音・稀音家五京・橘 公・坂野他恵子

●三味線

松永和三治・松永和寿三郎・松永和世幸・稀音家治乃
松永和世繁・松永和三雄・松永和三佳・稀音家五芳恵
稀音家典乃・東音田中香都子・阿部弘美・稲葉良子・逢坂朝美
大塚久美・森住美智子

●上調子

東音三木千佳子

3. 相生の詩 作曲：山本邦山

ひとみ会(三重県)



団体紹介

1952年、木岡一子がひとみ会（一十三会）を開軒する。高校、大学、会社、文化教室等のおこと部の講師を勤め、邦楽の振興普及に努める。

フランス、オーストラリア等に演奏旅行、H5年岩手県、H6年三重県の国民文化祭に出演、H6年には三重県文化奨励賞、H14年には第三銀行ふるさと三重文化賞を受賞、毎年県民文化祭、市民文化祭に参加し、ひとみ会の定期演奏会、コンサート等と併せて邦楽発展のため活動を行っている。多くの門下生を育成し、それぞれが各地で邦楽の普及、振興に尽力している。またH17年には二代目主宰の木岡ふみ子が三重県文化奨励賞を受賞し、今日に至る。

曲紹介

4つの音の句を起承転結のように綴って、日本の風景、祭り、わらべ唄といった我々の心に根差した事柄を表現した作品です。音の運びや手順が比較的流れを持ち、音の跳躍も少ないのですが、中程に表われる段物的な独奏部分、琴柱の左側の無調音の打ち爪等、流れの旋律と、それぞれに対比するはっきりとした旋律、リズムが自然に溶け合ってこの曲を作り上げています。

●第一箏

木岡ふみ子・矢倉晴美・斎藤洋子・坂下妙子・遠矢キヨ子
大図のり・松尾光子

●第二箏

高見巳代子・岡山早苗・山浦俊郎・服部佐登美・成田可南子
阿部寿子

●尺八

岡本莫山・小牧聚山・林 連山・森川敬山・阪田勸山・出口尽山

4. 六段の調 作曲：八橋検校

徳島県邦楽協会三曲部門(徳島県)



曲紹介

箏曲といえば六段といわれるように、最も知られた曲といえる。箏は八橋検校城談(1614~85)の、三絃は深草検校官一(1716登官)の作といわれているように現存の曲の中でも古いものである。各段52拍子(初段のみ2拍子多い)の六段からなる。

今回は箏は平調子、三絃本調子、尺八のオーソドックスな合奏で演奏します。

●三絃

内藤比露枝・元木澄子・湯浅志子・飯田一美・中川恵子
切東朱美・福永雅豊・藤川大記・菊華茂美・島田古都毅
湯浅古都美・万石都節風・川真田英子

●箏

菊村弘子・島本菊保・菊弘敏子・木内美香・布施喜代子
島本有理・泰地古都香・宮武古都浩・津田幸風・広木都乃風
多喜田聖風・増田和風・矢島惜邦・松本みめよ・仁礼秀人
井上紀子・白滝公栄・井内久美子・橋口直美・斉藤年子

●尺八

大薮亜童・大西晴一二・笠井鳴風・櫻井晴眉・宮武晴園
竹内倫風・笠井泰風・吉田晴耕・川真田螢風・中山康夫
山本眉山・飯藤方山・七條峰山・中川悠山・伊丹千山
大久保宴山・高橋洋山・藤井介山・千葉眉祐・森 聖雲
川原眉有・岡川明功・板東由有・武川七恵

5. 秋風の歌

作詞：島崎藤村

作曲：筑紫歌都子

岡山筑紫会(岡山県)



団体紹介

岡山筑紫会は昭和22年に結成し、現在約50名の会員がおります。主な活動状況は次のとおりです。

- (1)定期演奏会の実施(1回/2年)
- (2)弾初め会・ゆかた会等(毎年)
- (3)岡山三曲協会に所属し、毎年演奏会に出演
- (4)H7年アメリカセントルイスの日本祭に参加し、総領事より感謝状を授与
- (5)H16年文化庁支援の「伝統文化子供おこと教室」を1年間にわたって約30名の小学生を対象に実施
- (6)学校の邦楽教育の一環として、箏の鑑賞と体験教育を地域の学校に実施
- (7)公民館講座に琴クラブを開設し生涯教育の場として指導を行っている

曲紹介

島崎藤村の詩集より秋風の歌の第一と終りの歌を採り作曲されたものです。

箏は秋の幻想を風に舞い踊る落葉によせて、寂しい中にも軽快なタッチで描写し、尺八は静かな秋の夕べの感じと、望郷の想いを現しています。

今回は尺八のパートをチェロで奏します。

●第一箏

片岡歌和・時実歌慧・岡本歌宣・小野歌恵・本城歌理奈
松本歌雅・石原歌乃佳・佐藤歌靖・難波歌伶・雪上麿記栄

●第二箏

小林歌登志・神田歌秀・瀬戸川歌夕貴・高畑歌典・小林歌宏
水田歌智・木科歌洋・高原歌佐規

●チェロ

片岡正義

6. 岐阜民謡 おばば幻想曲

作曲：森岡 章

岐阜邦楽三曲会(岐阜県)



団体紹介

岐阜邦楽三曲会は、昭和63年に結成しました。

岐阜市を中心とした地域の、箏曲・三絃・尺八の各流派の団体35社中で構成し、会員約650名を擁しています。

これまで、春の「定期演奏会」(26回)、夏の「ジュニア演奏会」(16回)・国民文化祭・県・市町村の文化事業にも参加協力して、地方文化の発展に寄与いたしております。

演奏曲目も、古典・新曲・現代箏曲。三絃・尺八本曲等、幅広い演奏を致しております。

曲紹介

岐阜民謡「おばば」の旋律を基調として作曲されたものです。

〱お婆々どこ行きやるナー(ナーナー)

お婆々どこ行きやるナー

三升樽下げて(ソーラバエ)(ヒュルヒュルヒューヒュルヒュルヒュー)

〱嫁の在所へナー(ナーナー)嫁の在所へナー

ササ孫抱きに(ソーラバエ)(ヒュルヒュルヒューヒュルヒュルヒュー)

(以下囃子同じ)

〱岐阜はよいとこだよナー 岐阜はよいとこだよナー

金華山の麓

〱小田の蛙がナー 小田の蛙がナー 寝ちよって聞ける

●三絃

菊久さかゑ・菊夕奈津子・菊芳 幸・菊乃京子・菊寿々ゆかり
浅見典子

●一箏

菊上佳津子・菊清裕子・菊尾佳のぶ子・河野雅陽都・中島雅千都
今尾圭子・大塚歌菊乃・岩崎歌菊麗

●二箏

菊宮得子・井川佐登美・田中圭子・高橋歌菊・中島歌菊津
細野雅楽順・浅野早里

●十七絃

菊池佳子・田口雅楽慶・小島登志子

●尺八

吉井華山・伏屋松山・宮部連山・梅村扇山・林 蒼山・木次雅山
若林蓮山・児島道山・田上旭山・石樽愛以裕

7. 合吟

徳島県邦楽協会吟詠部門(徳島県)

(1). 阿波八景 作詩：八木瑞堂



曲紹介

作者は、徳島県の吟剣詩舞道界の草分けである初代八木瑞堂先生である。

この詩は、「かずら橋」「鳴門の渦潮」「剣山」「眉山」「土柱」など阿波の名勝・奇勝八カ所の景観のすばらしさを詩ったものである。

●発声者

●西條典綜・金澤典笙・小川瑞興・福本瑞耕・福原瑞憲
上町瑞晟・大平瑞應・松原瑞崇・竹内瑞教・矢上瑞昇
後藤田瑞瓊・西山瑞良・小西大煌・森 大暉・麻植大徹
吉田大哲・石田炫城・三谷瑞脩・藤村瑞宝・福德鳳心
松村祥星・樋口祥鵬・稲井詠道・木内龍旺・中村龍庸
森本眉峰・折野琴龍・佐野明龍・内村功龍・近本公龍
朝井水光・古川滋洲・高島功洲・石井岳洲・泉 耕光
岡崎雄光・下平勝心・下坂魁心・加藤博心・峰田景亮
橋本景侯・細川景笠・谷 景裕・栗本竜昶・片岡良昶
泊 彫鶯・木虎貢鶯・土江鴻雲・牧本山嶺・坂東山岳

(2). 祝賀の詞 作詩：河野天籟



曲紹介

作者は、熊本県の教育者で、この詩は、お祝いを賀す詩として作られたものである。

内容は、「瑞雲」「五風十雨」「福」「寿」「鶴」「亀」などめでたい語句を中心に詩を構成しこちよひびきの中で、心からの祝意を表現したものである。

●発声者

●折野瑟鳳・西條瑛鳳・大野娟鳳・大地和鳳・三宅大楓
早瀬大柳・米沢大誠・松田大峰・三木大翠・浜 大雅
高柳瑞柳・山田瑞葵・上野瑞伯・石田瑞房・齊藤瑞昂
澤口瑞愷・森 瑞臻・朝田瑞紹・大貝瑞猷・米田瑞拓
安田水鈴・竹田水藍・生越水由・水上水鶯・播磨風光
福池穂光・近藤暁心・前田姣心・早雲紅心・佐野静美
村井静初・村上祥峰・溝渕祥揚・野田祥楓・児島瑞楓
岩佐瑞光・佐野瑞彩・中本景妹・笠井景舟・山岡景陽
清水景果・眞鍋富昶・阿部欣風・春藤素風・阿部麗秀
三木麗揚・丸岡麗虹・杉本龍心・新名龍宣・大西龍順

8. 千代の鶯 作曲：光崎検校

呉三曲会(広島県)



団体紹介

昭和24年8月に結成された呉市文化団体連合会の中に、会員4名で誕生した呉三曲会がありました。その時始まった呉市春秋の文化祭邦楽演奏会から今年5月27日に第100回記念を盛大に開催したところです。現在会員数は57名です。呉市教育委員会との連携により、平成5年度から始まった呉市小中学校邦楽鑑賞会は15年目に入り、益々盛んになっております。今までに実施した学校は延300校を超え参加した生徒数は5万3千名に達します。子ども達の成長や人生にとって邦楽が何かにつけ役立つ事が有ればと願っております。

これに並行して学校の統合により廃校になった教室を利用して、今年6月より文化庁から委嘱を受けた(財)伝統文化活性化国

民協会の事業として呉市箏・尺八演奏子ども教室を開設し、こどもと邦楽の接点を求めています。国民文化祭への出場は今回で5回目となります。このような機会を頂き関係者の皆様に有難く感謝しております。

曲紹介

除夜の鐘もやみ、一夜明ければ新しい年を迎える。気分も改まり清らかな新春となる。鶯のさえずる声によせて唄われております。

古典の京もの手事の中の名曲のひとつです。
～悦びの眉を開きて天の戸の、一夜明けくれば春立つや、霞たなびく東山、前の流れは底清き、加茂の川瀬のあけぼのの、寝耳に水の幸いを、告げてや遊ばん百千鳥。
柳桜のたぐいなく、わきてわが住む軒ごとの、飾り絵ならぬ花の縁を、萬代よばふ鶯の声。～

●箏

操田楽琴・菊智英房子・中塩陽子

●三絃

菊鳳千益江・菊鳳春由希子・菊友好加代子・菊鳳水マチコ
浅田玲子・藤沢菊治・菊智野弘美・脇舩美希琴

●尺八

井開朗山・岩城明山・廣光剛山・脊戸心山・山本誠山・宮岡篁仙
齊藤道山・西川絃山・菅原進山・住吉桃山・山田稜山・小松瑛山
三宅侶山・北森進山・大岩潜山

9. 海鳥の詩 作曲：江戸信吾

アララギ楽苑(福井県)



団体紹介

アララギ楽苑は、今年で設立から54年目を迎えました。

今までの伝統的な日本音楽の枠を超えて、スピード感・力強さをバネにした誰にでも楽しめる邦楽を求め、古典から現代曲まで幅広く取組んで、日々箏の可能性を追求しています。

東京からプロの演奏家を招いて3年ごとに定期演奏会を開催するとともに、子どもたちが中心となって演奏をするジュニアコンサートを実施しています。

一昨年は、ウィーンフィルメンバーと共演し、ジャンルを超えた和洋コラボレーションを実現しました。

これまで、福岡県、地元の福井県、山口県で開催された国民文化祭に連続で参加させていただいており、今回また徳島県でも出演の機会をいただいたこと、光栄に思っております。

曲紹介

土佐の桂浜の海岸から見た静かで雄大な太平洋の風景、その中に打ち寄せる波、力強いカツオ漁の様子などを盛り込み、一羽の海鳥がそれらを眺めながら、飛び続ける。そのようなイメージで、ノリのよい民謡調の曲に仕上げられています。

●一箏

渡辺悠子・田村佳子・北村知子・師田響子・宇野桃世
佐々木美緒・中山晴菜・真柄美季・川崎紀枝・川崎明美
片粕葉里

●二箏

石川麻紀・内藤真代・小川萌香・畠中智美・山田 葵

●十七絃

鈴木美穂

●三絃

蜂谷陽子・仲谷友希・坂口文恵・水野梨恵・山坼由香

●尺八

屋敷詠山

10. 編曲八千代獅子

作曲：藤永検校

編曲：宮城道雄

大分県三曲協会(大分県)



団体紹介

当協会は、昭和28年1月に県内各地の箏、三絃、尺八の師匠が流派を越えて、演奏技術の向上と会員相互の親睦をはかる目的で発足し、今年で55年目を迎えています。

毎年秋に大分県民芸術文化祭参加行事として当協会主催の定期演奏会を実施しており、今年度で47回目となります。

平成10年に大分県で第13回国民文化祭が開催され、「大分98・邦楽の祭典」を実施し、以降の国民文化祭に出演を続けています。

また、大分県や大分市の教育委員会からの委嘱により、小中学校への伝統芸能に触れる教育の支援として各学校を訪問し、公演や体験指導を行い、子供達に和楽器の魅力を伝えるべく活動しています。

現在、絃方121名、尺八94名の会員が研鑽を重ね個人としても意欲的に活動を続けております。

曲紹介

藤永検校の作曲した「八千代獅子」は、竹と松と雪（豊年の吉兆といわれる）を主題とした、めでたい内容をもっているのので「松竹梅」などと並んで、祝儀の曲としてしばしば演奏される。

この「編曲八千代獅子」は、三曲合奏として行われている原曲「八千代獅子」を、胡弓、十七絃を加えた大合奏曲として編曲したもので、古典曲の現代化を試みた宮城道雄の一連の編曲活動の中でも代表作のひとつである。

●第1等

三浦敬子・松原英子・桂川幹子

●第2等

三浦麻央・平井恭子・大石景子

●三絃

阿部允子・安部吉子・牟田三津子

●胡弓

林千恵子・岡 綾子

●十七絃

柳沢光二

●尺八

野仲矢山・二宮霊山・三代朱山・藤尾弘山・伊東筆山

11. ひぐらし

作曲・編曲：中能島欣一

群馬三曲協会(群馬県)



団体紹介

群馬三曲協会は、戦後間もない、昭和22年に群馬県内の三曲各部門の専門家、およびその同好者により創立されました。

この会の趣旨として、会員相互の融和協力によって、技芸の練磨を計るとともに三曲の発展普及に寄与することを目的としています。

創立時から現在まで、とぎれること無く活動を続け、本年6月10日には60周年記念演奏会を開催し同時に60周年記念誌を発行することが出来ました。

現在会員数175名で、新年総会、定期演奏会、及び他団体との合同演奏会等、様々な活動を通して三曲の発展普及に努めております。

曲紹介

大正15年8月作曲。

作曲者の言葉によると「作曲当時、群馬県の伊香保温泉に遊んだ時、夏の驟雨の激しさと、その降りやんだあとの夕焼とひぐらしの声のさわやかさ、そうした情景に心を打たれて作曲したものであるが、曲はいささか描写的で、かつ単純な構成、作詞も稚拙な自作で、作品として余り自信がない」とのことである。にもかかわらず、広く愛好されているのは、程良い大衆性があることと、他の代表的中能島作品のように技巧が困難でないためであると思われる。

●箏第一替手

赤尾梨保・清水采保

●箏本手

神保幾子・金井江保・佐藤富保・小平妙保・佐藤美弥井
奥田照恵・青木照英・織田島照美穂・高丸照嬌・後藤照純

●箏第二替手

永井晃保

●尺八

萩原斎童・浅見裕童

12. 勸進帳 作曲：杵屋六三郎

特別出演

ゲスト・プロフィール

今藤 尚之



神戸市生まれ、今藤長尚に師事、今藤尚之の名を許される。上京し三世 今藤長十郎の内弟子となり、今藤綾子に師事。荻江露友にも師事し、荻江露喬で荻江島に出演している。

NHK 邦楽番組、国立劇場公演、日本舞踊協会公演、歌舞伎公演（中村勘三郎）に出演。本年は3月末に市川團十郎一座のバリ、オペラ座公演に同行し、長唄地方連として活躍してきた。

くるまぎ奏舞同人、大阪芸術大学講師

平成3年に同朋社よりのCDにて日本舞踊曲を収録

趣味 絵

七代目 杵屋 佐吉



昭和28年(1953)五代目 杵屋佐吉の二男として東京日本橋に生まれる。18歳で曾祖母の名を継ぎ、二代目 杵屋佐喜として、兄の小佐吉と共に長唄三味線方の活動を始める。

平成5年父の逝去に伴い、昭和60年より、くも膜下出血の為長期療養中だった兄（平成8年没）に六代目をおくり、同時に七代目 杵屋佐吉を襲名。

佐門会演奏会・勉強会・芙蓉曲研究会、代々の杵屋佐吉作品の発表会である「杵屋佐吉の会」等を主催。江戸時代の古楽器「古近江」をはじめ、古い三味線やめずらしい三味線の収集、修復、改良等、楽器研究家。作曲も多く手がけ、代表曲は「まりつき禿」「鶴越」「大江戸両国花火」「野路の月」「万燈華」等。長唄佐門会家元。長唄協会理事・同企画委員。現代邦楽作曲家連盟同人。楽明会同人。

また五代目 杵屋佐吉の時代より続いている「徳島佐苗会」を基に立ち上げた「青の会」を、杵屋佐篠師と阿吽の呼吸で指導にあたり、企画演奏会を主体として徳島の若手の育成に力を添えている。

*代々佐吉家の代表的な作曲作品

「蜘蛛拍子舞」「黒髪」「高尾」「浅妻船」「まかしょ」「二つ巴」「惜しむ春」「五月雨」「悪太郎」「雪月花」「夢殿」「伊勢参宮」「三社祭」「綾の鼓」「黒塚」「常磐草紙」「友白髪祭賑い」「阿波踊慕情」三弦主奏楽「隅田の四季」「まつり」「ねずみ車」「みぞれ降る夜」小曲集「芙蓉曲」等々。

寶 山左衛門



ご挨拶

秋も深まって参りました今日、徳島での国民文化祭の開催、誠におめでとうございます。この度、杵屋佐吉師、今藤尚之師をはじめとする方々の演奏を徳島の皆様に聞いていただける事をなにより嬉しく思っております。

私も徳島とのご縁は深く、杵屋佐篠師が開催されている長唄「青の会」に毎年お伺いするのを楽しみにしておりました。今回この会にお招きいただきました時も、佐篠師が徳島国民文化祭のために奔走しておられるお姿が目に見え、是非にも応援に駆けつけなければと昨年来体調を整えて参りましたが、あいにく叶わず、お伺いすることが出来なくなりました。皆様方には誠にもって申し訳なく、何よりもお目にかかれなくなったことが本当に残念でなりません。元気になりましたら、必ず徳島に伺いたいと思っております。

また私事で大変恐縮ですが、昨年孫の賢太郎に私の前名を継がせ、七代目 福原百之助として、今回私の代わりに囃子方として行かせる事に致しました。まだまだ若輩者ですが、どうかご了承いただきます様よろしくお願ひ申し上げます。

会の御成功と、徳島の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。



曲紹介

勧進帳は、能の「安宅」を元に作られました。

歌舞伎では度々演じられる演目となっており、その伴奏音楽である長唄「勧進帳」は、長唄の代表的な曲のひとつです。

能の謡、大薩摩、一中などがちりばめられており、「滝流し」という三味線の合方は曲全体を締めくくるにふさわしい壮快さを感じさせる等、唄・三味線共に聴かせどころの多い洗練された名曲です。

唄・今藤尚之ほか、三味線・杵屋佐吉ほか、囃子・寶山左衛門社中による演奏が披露されます。どうぞご堪能ください。

●唄

今藤尚之・杵屋佐之隆・杵屋佐喜三郎・杵屋佐喜・芳村辰三郎

●三味線

杵屋佐吉・杵屋佐助・杵屋浅吉・杵屋佐和十郎

●[上調子]

松永和寿三郎

●囃子

[大鼓]

福原鶴八郎

[小鼓]

福原百之助・藤舎呂英・福原鶴之助・望月 潤

●笛

福原 徹

13. 銀色の翼にのって 作曲：佐藤義久

宇部三曲連盟(山口県)



団体紹介

創立は昭和45年5月18日に教育長を顧問に迎え、地元の箏、三弦、尺八の先生方で邦楽の発展と継承者の育成並びに会員の交流を目的に15団体で結成。翌年の宇部市制50周年記念に第1回三曲演奏会を開催、以後毎年宇部市芸術祭に参加。また山口県邦楽大会には、昭和50年の第7回大会から参加。平成8年9月第11回国民文化祭“とやま”96邦楽の祭典に初参加以来毎年参加の機会を与えてもらって積極的に参加しております。

平成11年11月3日の文化の日、宇部市芸術文化振興賞で功労賞を受賞しました。これは優れた創作活動を続け長年にわたって宇部市の芸術文化の普及、振興に尽力してきた功績によるものです。

現在11団体160名が技量のレベル向上、伝統文化の継承と創造、人間形成を目指し、演奏会、講習会、小学校の邦楽鑑賞会などに活躍しております。平成16年度より「伝統文化こども教室」を開催「宇部琴こども教室」に多くの子供達を集めて、指導しております。

曲紹介

あの広い空を飛んでみたいな。
あの広い空を飛んで
遠くへ行ってみよう。
白い雲をかきわけ
大海原を眺めながら
あの虹のかなたに行ってみよう。

メロディーの美しいドラマのある音楽です。

●第一等

菊広吟秋・藤金敏子・山本安子・菊汐友文子・梶間谷歌孝
伊東秋霞・園田鴻子・益田藤子

●第二等

堀田真紗子・小林秋薫・谷口奈津江・台田歌典・西原宜子
松富敬子

●十七絃

中島信恵・大畑千夜子

●尺八

釈野啓童・原田耕童・本松光童

14. はるかなる大地 (怀念的中國大地) 作曲：池上真吾

松村紫乃&グループ琴(高知県)



団体紹介

高知県芸術祭協賛コンサートはグループ主催で毎年公演を行っている。

海外公演は、数年間にわたって中国においては雲南省昆明、甘肅省の音楽節、また上海音楽院では同院生と日中交換民俗音楽交流演奏会を行う。

インドにおいては当時のヒンズー大学学長夫妻の依頼で4回渡印してインド各州でコンサート。また日印国交樹立50周年記念式典にはインド日本大使館依頼で記念式典演奏の大役を果たした。現在も益々友情の輪が広がっている。

アメリカ演奏は20年前から日系二世の方の依頼でワシントン州各地演奏、演奏会の合間に現地の人々や学校を訪問して親交を深めた。これからも拙いながら日本の音を世界に発信して音の輪で親交を深めて行きたいと思っている。

曲紹介

大谷紀子(箏演奏家)の生まれ育った大連。
その故郷への思いを託されて創った邦楽器による合奏曲。
素朴で大らかな旋律を全面に打ち出した大陸風な香りのする曲調に仕上がっている。

●第一等

松村エリナ・内田香代子・池内桂子・山崎敏子・増川由紀

●第二等

門田佳子・村田雅子・前沢弥生・沼野大恒

●十七絃

金平真奈美・前島理恵・渡辺朝子・劉 理恵

●胡弓

池上真吾

●二胡

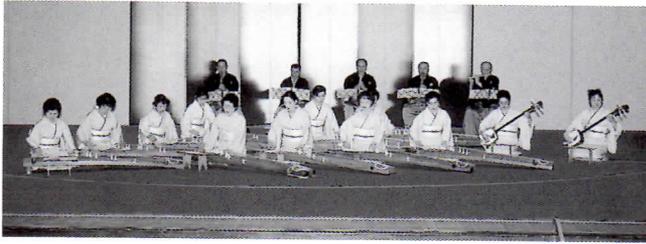
松村紫乃

●尺八

山本秀峰・島村生山

15. 富士 作曲：大月宗明

静岡県三曲連盟 歌乃会(静岡県)



団体紹介

歌乃会は1952年に発足いたしました。

主宰者歌水は、地域の文化活動に主体をおき静岡市三曲協会の主催行事県三曲連盟の行事に歌乃会は缺かす事なく参加しています。

アメリカ（カーネギーホール）オーストリア（ウィーン）で公演してまいりました。

高校・大学のクラブ指導に意欲を持って若い人が邦楽に親しめるよう長年に亘って続けています。

曲紹介

堂々として美しい富士の姿、清らかなそして厳しく時に雷鳴とどろく激しい山を表現しようとした曲です。

第一楽章 堂々とした富士の姿を四分の六拍子で重厚なりズムで表現しています。

第二楽章 日本の象徴としての富士に思いを寄せ清らかさ気品に満ちた荘厳さをテーマとした雅楽風な感じの楽章です。

第三楽章 静けさと厳しさ時に雷鳴とどろく気象変化の激しい富士は「六根清浄」と唱える精神修行の道場でありました。これを表現しようとした楽章です。

●第一箏

石川歌水・保田栄乃・大石弥香

●第二箏

田井加寿乃・浦山倫乃・吉本淑乃・佐藤千佳子

●十七絃

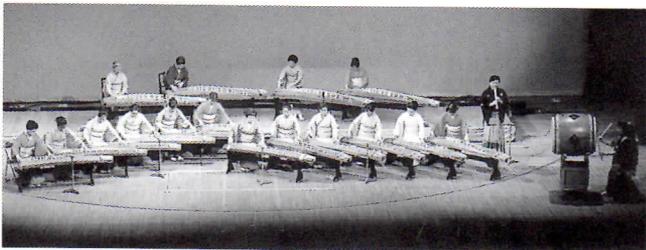
澤田和乃・森田光乃

●尺八

杉山駿童・小林菘童・青野要童・杉原伸幸

16. ふるさと民謡浪漫 うたろまん 編作曲：野村祐子

箏曲正絃社(愛知県)



団体紹介

箏曲正絃社は、野村正峰により昭和40年創立、平成14年に二代家元を野村祐子が継承しました。初代、二代ともに創作作品が多く公刊されております。作品は日本の伝統音楽を土台とし、古典文学、歴史などを題材にした叙情あふれる旋律で全国的に愛好されております。

本拠地名古屋では、隔年に春の定期公演を開催し、その他各地でも会員の演奏活動を活発に行なっています。

昭和62年 愛知県芸術文化選奨文化省 受賞

平成15年 名古屋市芸術賞特賞 受賞

平成18年 愛知県教育表彰 受賞

曲紹介

よく知られている日本各地の民謡を、三絃を中心とする、箏、十七絃、尺八の合奏にしたものです。

福島県民謡「相馬盆唄」、宮城県「さんさ時雨」、箏のソロに祖谷の粉挽き唄のメロディーを入れ、「土佐の高知の播磨屋橋で、坊さんかんどし買ひよった」と「よさこい節」、岩手県民謡「外山節」、作曲者が地域の文化祭の為に作曲した「守山やまもり音頭」。フィナーレは合いの手も華やかな山形民謡「花笠音頭」とめでたく弾き納めるメドレーです。

●第一箏

野村祐子・河北裕子・今井邦子・長瀬由未子・竹内裕美

●第二箏

鷺津紀子・堀内節子・栗山美智子・増原久美子

●十七絃

野崎 緑・野田美知子・加納奈央子

●三絃

山田かな子・水野秀子・野中みどり・藤谷美里・安良城尚永

●尺八

山本玉仙

●太鼓

野村倫子

17. 寿式三番叟 鈴の舞 作者：不詳

徳島県邦楽協会浄瑠璃部門(徳島県)



- 大夫
大和友代
- 三味線
鶴澤友喜久・鶴澤友丸
- 人形遣い
鈴江俱邑・佐藤博之・坂東和忠・敷島富子・真鍋栄美子
桜井和代

曲紹介

三番叟の始まりは能の「翁」からと伝えられている。

神聖なものとして第一番目に置かれ神社の祭札に奉納されてきた祝儀曲である。天下太平、五穀豊穰、家内安全を祈願するもので物語は特にならない。

二人の三番叟が連れ舞い、鶴の舞、鶴亀の踊りがあったり鈴をもって種まきのしぐさがあったりする。

曲に合わせてだんだん踊りも激しくなり、やがて一人が舞い疲れて休もうとするが、もう一方が引きとどめいっしょに踊ろうと最後まで舞い納めるユーモアあふれる出し物である。

18. 和風楽 作曲：宮城道雄

胡弓の会「韻」(東京都)



団体紹介

平成4年より中井猛宅で定期的に行われていた胡弓合奏会を母胎として、平成6年の4月に、胡弓の会「韻」として発足致しました。

まず、東京上野の旧芸大奏楽堂での第1回の旗揚げ演奏会を催し、続いて第2回は大阪公演。以後三重・栃木・富山・岐阜・鳥取・山形・福岡・福井・山口と各県の国民文化祭に出演しております。

「韻」の同人は東京芸術大学邦楽科出身の演奏家をはじめとして、宮城会・正派・大阪京都の当道会・筑紫会・沢井会など、流派を越えて胡弓に心を寄せる方々が、北海道から九州に及ぶ広い地域で参加しています。

加えて、平成7年7月には国立劇場特別企画公演「胡弓Ⅱ」に出演。同9年2月には埼玉県越谷市主催「胡弓」に出演、また平成18年7月には胡弓の会「韻」北海道公演を催し、胡弓を用いた古典や宮城道雄作品を演奏して、好評を博しております。

曲紹介

宮城道雄の業績の一つに、日本楽器を動員した日本の管弦楽を確立したことがあげられます。大正10年「花見船」で試作され、

同12年の「薙露調」で笙や打物が使われ、その次に作られたのがこの「和風楽」です。これは大正15年に尺八の都山流創始30周年を記念して、祝賀曲として中尾都山師に贈られた曲です。今回は尺八のパートを胡弓に移して、胡弓3部の合奏とし、それに近年演奏されることの少なくなった玲琴を加えて演奏致します。

- 胡弓Ⅰ
池上眞吾・市川佐代子・岡本清子・岡本文子・川辺和代
川辺 勝・高野雅美・坪井清美(笙)・小林以登・清水照美
竹迫ミナミ・中嶋郁代(笙)・中島美喜子・福脇文彦・星 知鷺
松村エリナ・松村紫乃・山形真珠代・吉田正子・吉村恭子
- 胡弓Ⅱ
浅川尚子・堤 隆子・中畝詩歩
- 胡弓Ⅲ
芝原裕子・細見由枝・山田 櫻
- 玲琴
岡村慎太郎・西川かをり・松坂典子
- 箏高音
藤田節子・上野里美・木下良子・小西規子・駒木怜子・亭 卿子
長谷川秀子・細川英子
- 箏低音
菅井 愛・田中 亘・森真理子・横川喜美子
- 十七絃
田嶋つか子
- 笙
中井 猛

19. 錦秋 作曲：野村正峰

徳島県邦楽協会三曲部門(徳島県)



曲紹介

錦の秋山に鹿の遠音、虫の声などの風物を添えつつ、次第に高まり行ゆく秋の興を素朴な音階で展開してゆきます。

山川をくれないに染めて流れる紅葉の激しい動きをあらわす部分をクライマックスとして最後には逝く秋を悲しむような余韻を長く残してゆきます。

●第一等

遠藤綾子・岩田真紀・遠藤あゆみ・千本彩加・遠藤咲季子
米澤直樹・前坂由美子・原田陽子・山本欣志子・武知陸子
和田陽子・高井祥子・真島貴巳子・森上順子

●第二等

遠藤 舞・中谷茉矢・久米真衣奈・山田麻悠子・遠藤麻央
秋田真里・前田満子・今倉千恵・藤井萌如・宮岡量子・天羽悦子
賀川玲子・猪井恵朱

●十七絃

櫛本雅子・小倉佑一朗・室志津代・桑原登志子・小山由紀
菊香華堯子

●尺八

浜井弘保・西野箏保・清水露保・板谷崇保・兼松劉保・畑 笙保
中田笏保・近藤誠道・岡田英規・川端良美・岩野泰三・佃 伸一
近藤寛康・浜田雅山・杉口瑠山・阿部関山・西尾泰山・地紙湫山
松下哲山・前田晋山・堤 学山・藤本昶山・市原神山・船井学梵

20. 千曲川 作曲：杉山旗水

徳島県邦楽協会琵琶部門(徳島県)



曲紹介

天文、弘治、永禄の間、甲斐の武田信玄、越後の上杉謙信の両雄は、川中島で度々兵を交えたが遂に勝敗を決することがなかった。この合戦の起因は、信玄に攻撃された信濃の村上義清が謙信に援を乞うたことに始まるのである。

謙信が単身馬にて信玄の陣に入り、太刀にて信玄を斬りつけるが、信玄は軍配団扇にてこれを受けたところ、団扇が二つに折れてしまうくだりなど、真に血湧き肉踊る場面でこの曲の聞き所である。

●琵琶

内田華水・山中祥水・吉本房水・貝出玲水・芝原正水・山中奏水

21. 編曲長唄「老松」

作曲：野村正峰

絃教会(兵庫県)



団体紹介

天保元年、神戸生まれの第二世 中島検校が「絃教」を名乗った。(第二世のお弟子に宮城道雄あり) 現在は、第五世 絃教の内弟子として修行を積んだ(松尾絃興)が、人間国宝菊原初子先生(故人)の推薦を受け第六代目を襲名し、「絃教会」を継承している。

主な演奏活動は

昭和57年 中島系200年記念物故者追悼演奏会(神戸農業会館に於て)

昭和59年 第五世追悼と襲名披露演奏会(神戸ポートピア国際メインホールに於て)

昭和63年 第五世7周忌追悼演奏会(六代目出身地西脇市民会館に於て)

以上いづれも菊原先生をお迎えして開催した。

後は、箏曲と地唄の伝統を大切に現代曲も交えて指導に当た

ている。神戸や東播磨地域を中心として全国の文化事業への参加等、巾広く、地元の催し事の外に、県立高等学校箏曲部(2校)の指導にも、40余年に亘り務めている。

曲紹介

原曲の長唄「老松」は文政3年に四代目 杵屋六三郎が作曲したもので、母ますの80歳の祝いとして「ます」を「まつ」に通わせて撰名したものと伝えられている。秦の始皇帝が松の樹蔭に雨宿りをした際、松に太夫の位を贈ったという故事や“松の位”から花魁の階級の“松の位”に結びつけて廓情緒をうたう歌詞などが続いています。変化に富む曲想とご祝儀の気分とを合せ、厳肅荘重な部分、又は軽快な手踊りの雰囲気等、工夫された曲です。(1986)年7月作曲。

●第一箏

土師原睦代・中島絃教

●第二箏

内田純子・大江順子・有末明美・桑村桂子・蓬萊興誉

●十七絃

中代絃香

●三絃

藤井教裕・松尾 寛・大江教恒・中興絃美

●尺八

岡田絃山・小林純山

22. 三絃二重奏 スウイング・バラード・ニュー“SWING・BALLADE・NEW”

作曲：安武慶吉

生田流箏曲北斗会(福岡県)



団体紹介

生田流箏曲北斗会は、1960年に安武慶吉より創設し、本部を福岡市西区に置いています。創立以来、毎年定期講演会を行うと共に数々の演奏会に出演し、活動を続け高い好評を得ています。幼少の頃失明した会主安武慶吉は、財団法人日本当道音楽会より検校の位を受けて以来門下生の育成に努めるかたわら、福岡三協協合理事、日本盲人連合音楽会副会長をはじめ地域の団体役員などの任についています。その間故坂本努氏に作曲を師事し100曲以上の作・編曲をし、この秋にはCD 安武慶吉の世界 vol. 4 を発売予定です。

私たち生田流箏曲北斗会会員は、日本人としての心を大切に日本の伝統芸術を正しく継承し、音楽を通して地域社会に貢献し、世界に誇る日本の音色の追求を目的と致します。そのためには、会員相互の和を重んじ、節度ある態度と情緒豊かな精神生活の発露としての「音」の表現を心がけ、北斗の星としてお互いに輝くように努めます。

曲紹介

この曲は、1960年代に流行したジャズのリズムをふんだんに使い、全体を通して平均律で演奏されるように作られている。

1 楽章 SWING は、軽快なテンポにより3つのテーマとそれぞれの展開部に構成され、地唄三弦としてはかなり難しいポジションが続く。

2 楽章 BALLADE は、バラードのリズム。6/8の短音階に始まり長音階に変わり、三弦としては異例の構成になっている。

3 楽章 NEW は、津軽三味線、阿波踊り、ロックのリズムを使い律動的な中に新しい旋律が随所に登場する。

●第一三絃

遠藤星風・小山呂星・平井有星

●第二三絃

古門星如・安武慶吉・安武恒星

23. いとたけ 作曲：沢井忠夫

鳥取県立米子西高等学校 箏曲部(鳥取県)



団体紹介

一昨年に創立百年を迎えた本校は、鳥取県米子市郊外の小高い丘の上にあり、山陰の秀峰大山と、夕日の美しい錦海に臨む、豊かな自然に囲まれた学校です。文武両道の校風のもと、箏曲部は52年の歴史を持ち、ほぼ毎年全国大会に出場している活気のある部です。お箏の他に、尺八や三絃の練習もしています。部員は高校入学後に日本音楽を始めた初心者がほとんどですが、美しい音色の曲を創り上げるために日々楽しく、そして厳しく練習に励んでいます。本日演奏いたします沢井忠夫作曲「いとたけ」は、いと(箏)と、たけ(尺八)の合奏曲ですが、尺八の代わりにフルートで演奏します。部員全員で心を込めて演奏いたします。どうぞお聴きください。

曲紹介

題名の“いとたけ”は、いと(箏)と、たけ(尺八)の合奏という意味から名付けたもので、この曲の内容を表現する為の表題ではない。箏と尺八の合奏の場合、一般的にみて箏がリズムを尺八が旋律を受け持つ傾向が多いが、この曲では、その扱いを、双方同じ角度から捕えてみた。従って尺八の場合、やや演奏しにくい点がみられる箇所がある様だ。箏については、押手を少なくして合奏を容易にする為、ディアトニック調弦を使用してみた。(作曲者より)

●第一箏

芝崎真優・大坪ひかる・近藤愛美・佐々木帆波
中村友紀・渡辺由佳

●第二箏

小谷紀子・遠藤祐美・笠井真理子・野上瀬奈
松田光奈子・森本千恵

●十七絃

前田 恵・片岡妙子・川内範子・隅田絵美・高梨 育

●フルート

奥田麻菜・馬場智保

24. 通盛 作者：不詳

徳島県邦楽協会謡曲部門(徳島県)



羅道に落ちておりましたが、僧の読経の功力で、成仏できたことを感謝するというものであります。

●シテ

吉田文明

●地頭

中野広二

●地謡

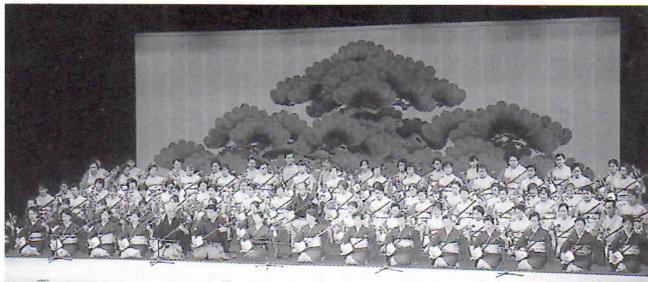
木下 徹・狩野直喜・萩野拓郎・石田秀憲・西条泰彦・小野蓉子
山本淳子・桑原千寿子

曲紹介

- 四国を題材とした謡曲は、讃岐の「八島」・「海人」と阿波の「通盛」の3曲であります、この物語の主人公、通盛は、平の清盛の甥で、従三位越前守に叙せられました。
- 「通盛」を阿波の鳴門をゆかりの地としたのは、妻の小宰相の局が、一の谷から屋島へ落ちてゆく道すがら、通盛が討ち死にしたことを聞き、渦巻く小鳴門の海に身を投げて19歳の花を散らしました、在所の人々は、この薄命にそぞろ哀れみを感じ、墓を造り厚く弔ったことにあります。
- 本日の「仕舞」通盛のあらすじは、通盛と妻の小宰相の局が、須磨・一の谷で、最後の夜を共にし、後朝の別れの後、戦場においては、木村の源吾重章と死闘のすえ相打ちとなり、共に修

25. 渦の舞 編曲：福島俊治

徳島県邦楽協会民謡部門(徳島県)



曲紹介

渦の一生を人生の一生にオーバーラップさせ、雨が降り川となり海にそそぎ、鳴門の渦となり大平洋に入り、水蒸気となり雲となりまた雨となり繰り返される。そうした自然の節理を三味線で表現したいと思っております。

●三味線

福島俊治・青山喜代子・橋本奈央子・高浜洋介・高浜雅代
佐藤春子・美馬祐子・岡久昌代・秋田真由子・森重希子
端村欣示・岩尾妙子・角山美智子・藤野祐世・青木リツ子
武田初恵・寺西員代・鈴木定子・西浦美恵子・杉本千鶴子
齋村博子・谷口広子・武岡起三子・竹内溶子・西野晴美
藤本千恵子・島田須美子・片山恒彰・稲実喜代恵・林 知子
廣野美知子・嵯峨山佳子・古郷 優・太田節子・清水孝子
桑村文江・山本幸枝・山北美佐子・勝瀬明美・志磨 恵
野口シゲ美・日崎重子・西岡泰子・松尾智子・豊川くるみ
古川記公子・堀田杏里・福島洋子

●踊り

河野瑠璃子・福島千恵美・堀田樹里

26. 阿波の風 作曲：石垣征山

香川県三曲協会(香川県)



団体紹介

昭和50年9月に県下の絃方6流派、尺八3流派参加のもと、200余名の会員をもって発会し、現在460名の会員を擁する県下唯一の邦楽総合団体として活動している。活動状況としては、演奏会、講習会、県内外文化団体との交流による研鑽と親睦を深めるほか、県芸術祭等の公的事業においても常に主催公演を受持つなど、地域文化の向上に特筆の貢献をしている。更に、会誌「三曲だより」を発行することによって会員相互の連帯にも意を注ぐなど一層の発展を期している。

曲紹介

「阿波の風」という名のように、全体に明朗で軽快な表情を持っており、曲のモチーフとなっている阿波踊りは、賑やかなお囃子に合わせて大勢が列をなして踊る夏の風物詩です。冒頭の力強いテーマから微風を思はせる所作へと続き、後半は軽快なりズムが現われ次第に高揚し、大団円を迎えます。

●箏 A

吉村淑子

●箏 B

永木利枝・八十紀支子

●三絃 A

安井安伎子

●三絃 B

片山範子

●十七絃

楠原季余子

●尺八 A

三好昭山・原田基山・都野城山

●尺八 B

寺石路山・東原操山・川西賀山

27. 四重協奏曲 阿波 作曲：森岡 章

徳島県邦楽協会三曲部門(徳島県)



曲紹介

尺八・三絃・箏・十七絃をそれぞれの持つ個性を生かすべく独奏部と合奏部に分けて作曲したもので、独奏楽器として、又、合奏楽器としての音色の変化、各独奏楽器によるアンサンブルの響の美しさを表現したものである。

一楽章は古典的な動きの中に、日本の代表楽器としての重厚さを強調し手事的手法を用いて各楽器の対話のおもしろさを表現している。二楽章は旋律的動きを主にして書かれており日本人の心に持っている静かな歌を思わせるような楽章である。三楽章は軽快なリズムで知られる徳島県の阿波踊りをもとにして作曲したもので、速いテンポとリズムが特徴となっている。

●箏独奏

猪井恵朱

●第一箏

菊村弘子・島本菊保・菊弘敏子・布施喜代子・矢島惜邦
美馬欣子・林 直美・増田夫規子・吉崎夕華・泰地古都香
宮武古都浩・川野真奈・八田明子

●第二箏

木内美香・島本有理・室志津代・松本みめよ・井上紀子
白滝公栄・広瀬都正伎・藤井幸子・津田幸風・多喜田聖風
小笠原真・岡川 茜・森 由后・乾 愛佳

●十七絃独奏

白浜雅伎

●十七絃

桑原登志子・小山由紀・仁礼秀人・広木都乃風

●三絃独奏

仁木古都風

●三絃Ⅰ

白田智子・人見繁子・池尻清香

●三絃Ⅱ

福永雅豊・藤川大記・万石都節風・濱田多映子・濱田 暖
橋本千代子・菊華茂美

●尺八独奏

山上明山

●尺八Ⅰ

大西晴一二・櫻井晴眉・浜井弘保・西野筈保・清水露保
畑 笙保・中田笏保・濱野羊山・鈴江湧山・折原佐山・田村湧憲
宮本明德

●尺八Ⅱ

中山康夫・板谷崇保・兼松劉保・松田太山・渡辺藍山
片山慶山・吉岡萃山・計盛卓山

邦楽の祭典 企画委員会

春	名	完	二	大	櫛	亜	童	杵	屋	佐	篠
椎	野	瑞	城	浅	香	寿	穂	浜	井	弘	保
猪	井	恵	朱	室		志	津	内	田	道	子
藤	本		玲								

主催：文化庁 徳島県 徳島県教育委員会 徳島市 徳島市教育委員会 徳島県邦楽協会
第22回国民文化祭徳島県実行委員会 第22回国民文化祭徳島市実行委員会